

住まいと暮らしの情報紙

第993号

2004年(平成16年)

11/5

11/11

週刊タイムス住宅新聞

MATSUKI
Forever Communication
株式会社松樹

中古住宅・土地 買います一括即金
TEL(098)892-1000

〒901-2202 宜野湾市普天間2丁目1番6号
沖縄県知事免許(4)第2709号



吹き抜けのリビング。
白い室内は自然の色を
際立たせるキャンパス

撮影/高野生優・フォトアートたかの

心おおらかなる夢舞台

真っ白な室内と、大開口にうつる豊かな緑が印象的な与儀さん宅。家づくりにあたり思い描いたのは、自然の中で心解き放ち、仲間と語り合える暮らしだった。(2、3、12、13に関連)

お住まい拝見

与儀さん宅
(金武町)

CONTENTS

- お住まい拝見1・2
- 快適つくる裏方さん3
- マネー4・5
- 支払いスケジュールを知ろう
- ひと7
- ニュース7
- “まち”に生きる8
- 市民活動をベースに
- 高齢者向け物件登場9
- 和風庭園を見る11
- 空間Collage12・13
- 不動産情報14~18
- うまんちゅトーク19
- Books19
- 住まいと都市20
- DIYで快適リフォーム...21
- It's a いんてりあ time23



◀リビング、パティオ、庭へのつながり。吹き抜けいっぱい到大開口を設けることで、周囲の自然や陽の光を思う存分取り込んだ。白い室内は季節によって異なる日差しや、陽の光が夕暮れ時から夜にかけ、赤からブルーへと変わるさまを映し出す。夜は間接照明や庭のライティングを調整することで、間に浮かび上がる竹林など幻想的な風景を演出



▲2階の寝室。吹き抜けとの間を仕切る窓を通し、ベッドから周囲の庭の木々が一望できる仕掛け。高い位置から眺めることができ、宙に浮いているかのような不思議な開放感を味わえる。窓を開閉することで、1階とのつながり、プライベートの両方を確保

◀外観。豊かな緑に囲まれ、青空に映える真っ白な外観が印象的。木々の配置考えながら設計。将来は庭を挟んで赤瓦を載せた趣ある離れを建てる予定

語るに生むパティオ

■趣味通じイメージ共有
ダイニングインスタラクターの免許を持ち、休日は仲間と連れ立って海へ出掛けるという与儀さん。「いずれ海の近くで暮らしたい」との夢を抱いていたが、仏壇を受け継ぐことになり、実家の近くに家を建てることに。緑豊かな環境も気に入って、金武町の街外れに土地を購入した。

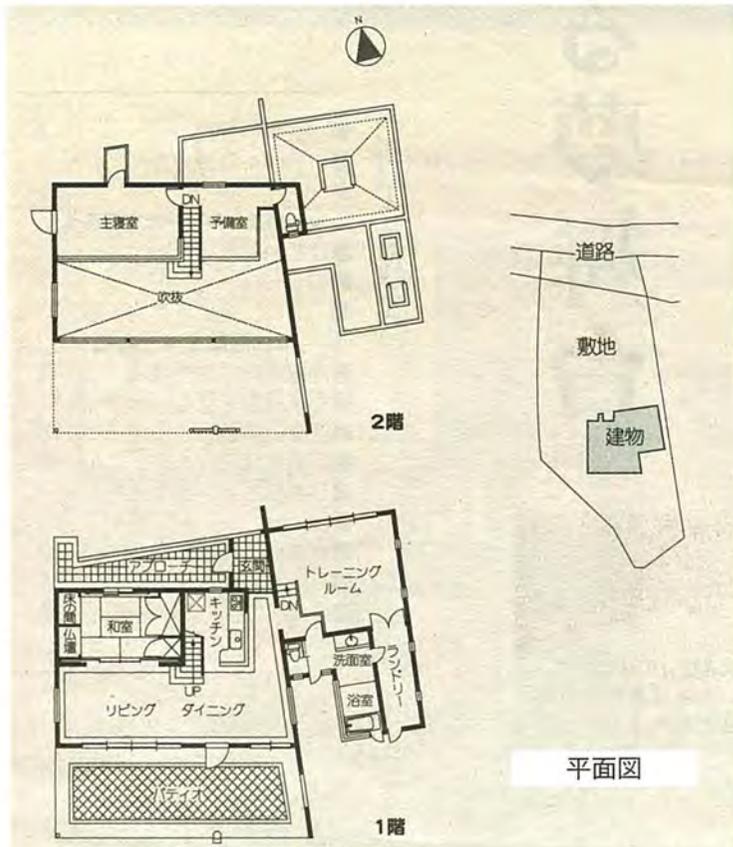
思い描いたのは、リゾートのように、自然の中で心解き放ち、仲間と語り合える住まい。「でも、それをどう形にしているのか分からなかった。そこで、同じダイニング仲間の建築士に、自分の抱えてきた夢や人生観はもちろん、育ってきた環境や家族、仕事など洗いざらい話したところ、それを受け止め、共感してくれました。共通の趣味を通じて交友を深めてきたこともあり、イメージを共有できたことが依頼の決め手になった。

■白壁に映る自然の移ろい
完成したのは内外共に真っ白でモダンな家。玄関に足を踏み入るとそこからリビング、テラスま

で続く琉球石灰岩の壁に圧倒される。吹き抜けのリビングをはじめ、寝室や浴室など各部屋が庭や周辺山並みに向かって大きく開かれており、開放感いっぱい。リビング脇には、トレーニングなど用途に応じて使い分けられる多目的ルームも設けた。

帰宅すると間接照明だけでゆったり過ごすのが常。音楽を聞きながら、室内が夕焼け色から青、漆黒へとかわっていく様子は幻想的。夏になるとホテルも飛んできますよ。白い室内に映し出される自然の移ろいにも敏感になるよう。友人らとパティオで酒を酌み交わすことも。間に浮かび上がる竹林や月など舞台が揃っているから、自然と気持ちがおおらかになって、いつも時間を忘れて語り明かしてしまうんです」と建築士と顔を見合わせ、うなずく与儀さん。

「思い描いていたことを形にしたことで一つの区切りになった。今後はここを拠点に、さらなる夢にむかってチャレンジしたいね」と声を弾ませた。



DATA

家族構成：1人
敷地面積：1157㎡(350坪)
建ぺい率：12%(許容70%)
1階床面積：120.20㎡(36坪)
2階床面積：29.45㎡(9坪)

容積率：13%(許容400%)
用途地域：無指定
躯体構造：
鉄筋コンクリート壁式
工期：2003年6月～2003年12月

設計：(有)チーム・ドリーム
福村俊治・具志好規
施工：(有)山川組 山川安雄
電気・水道：(有)名桜電水 比嘉誠

キッチンをあえて 見える所へ!



玄関そばのコンパクトなキッチン。いつも片付けておかないといけない! その気持ちを機能的なつくりに変えた。

住まいは箱でなく 空間としてつくる

住まいを単なる「生活の箱」と考えると、現状の暮らしに合わせて箱(部屋)のサイズを決め、場所と使い方を限定しがち。よく「空間としてつくる」と言うが、どのように解釈できるだろう。

空間とは ①空いている所、②すき間、③すべての方向に広がり果てしない所と、一般的に解釈される。このキーワードに与儀さん宅を当てはめてみると…

①空いている所はムダじゃない!

例えばオープンなリビング。無駄に広く取るより、部屋をつくった方がいいのでは?と思われがちだが、窓辺や部屋のコーナーに家具をレイアウトするだけで、いくつも居場所をつくることのできる柔軟さが楽しい。

②すき間はピッタリ落ち着かせる

すき間としての空間は、寝室や浴室といったプライベートルームを示す。開放的なつくりの中、一人落ち着く場所はしっかりつくる。明暗、メリハリが大事。

③すべての方向に広がり果てしない所

それが、心の解放につながる

パティオなど外へと開かれた場所。空や景色の向こう、心地良い自然を感じられる空間は、日常にやすらぎと充足感を与えてくれる。ほんの一瞬のパケーションも満喫できるのだ。

快適つくる 裏方さん

今週のお住まい拝見より

Q 大自然をリビングのよ
然に対する感動を住まいの中
中に展開させたい気持ちで
プランを進めました。
そこで、室内はシンプル
に、間取りはコンパクトに
まとめ、外部でありながら
室内のような使い方ができ
るパティオを中心とした暮
らしを提案しました。

Q リゾートホテルも身近
な住まいも、同じ沖縄に建
つ。同じ太陽の光色をいか
に取り込むか、立地によっ
て工夫すればいいですね。
A 壁の色を白一色として
いるのも、自然の光がきれ

Q コストの掛けどころを
見極める。耐久性第一とな
る部分は綿密な材料使いが
検討されていますね。
A 構造体は言うまでもな
く、パティオに面した床面の
素材使いなどには気を配り
ます。台風時には雨が吹き
込みやすいので、耐水性が
あり硬質な床材を張り分け
るなど、配慮が必要です。手
入れのしやすい時期など、
住まいに使う材料は、住む人
が扱いやすいように選んで
いくことを心掛けています。

ダイビングを趣味とする与儀さんは、海に輝く光、リゾート地ならではの癒しの空気など、自然への感動が日常となる住まいを希望した。感動をいかに表現していったのか、設計者の福村俊治さんに話をうかがった。

リビングが大自然 室内はシンプルに

Q 空や緑がダイナミック
に映り込み、室内は明るく
爽快ですね。
A 庭側は大きく開いて、
スカートを外へ抜けるよう
なつくり。与儀さんは私
のダイビングの先生でもあ
り、沖縄の大自然を肌で感
じる者同士。せつかくつく
るなら、日常生活と海で味
わう感覚が別世界では物足
りない!と、できる限り自

うに使える暮らし、うらや
ましい限りです。しかし、普
通の感覚だと、なかなか実
現しないスタイルですね。
A 窓一つつくるにも、ど
のような光が降り注ぎ、色
や景色が見えるのか、与儀
さんとは互いにイメージが
通じる感覚が良かった。大
自然の素晴らしさを知らな
い人なら、便利さや安さな
どに目がいきがちです。大

沖繩では、クーラーを入
れなくても、照明を付けな
くても、非日常的な、感動
のある暮らしが実現できま
す。環境の良さをもっと生
かさなければもったいない。
開口部は、採光や通風を促
すだけでなく、自然の景色
や光を取り込みインテリア
に映し出すようにデザイン
すると、ほかにない感動を
呼び起こせます。

いに映りこむよう配慮した
一例です。一色使いでも、光
の当たり具合で濃淡が表れ、
空間に奥行きや広がり感が
感じられます。
大胆に自然を取り込む窓
きれいな景色を切り取って
見せる窓などバランス良く
開口部を計画しておくこと、
余計な装飾をしなくても十
分に豊かさが感じられます。
二階の主寝室からは吹き抜
けとパティオを介して美し
い自然が見え、森の中で寝
ているように思っています。

沖縄の良さアピール 輝く暮らしデザイン



沖縄を代表する風景・建物と言えば…青い空、海、白砂に続くリゾート施設、首里城、伝統的家屋に見る赤瓦などがイメージされる。与儀さん宅は、将来的に庭の一角に小さな赤瓦家を建て、風情を満喫できるよう計画。世界のどこにもない独創性をアピールし、田舎暮らしをセンスアップ。高齢になっても輝くライフスタイルを展開できるよう願いつつられた。(左写真は将来のイメージ模型)